

# 令和6年12月議会 宇都宮市議会定例会報告

宇都宮市議会では、昨年9月議会の一般質問から「会派持ち時間制」が導入され、各定例会に登壇する質問者は20分、40分、60分のいずれかを選択することになり、3名以上の会派には、「代表質問」の1名のみ10分間を加算できるようになりました。

## 代表質問 70分 中塚英範



### 質問項目

#### 1 市長の政治姿勢について

- 1) 市長の公約・所信表明
- 2) 職員のメンタルヘルスケア
- 3) 公益通報窓口
- 4) 改正戸籍法への対応



中塚英範市議  
録画配信HPのQRコード

#### 2 自治会DXの推進について

#### 3 ヤングケアラーへの支援について

#### 4 闇バイトから青少年を守る取組について

#### 5 PFAS(有機フッ素化合物)への対応について

## 個人質問 60分 大久保順也



### 質問項目

#### 1 高齢者に対する買物支援と交流機会の整備について

- 1) 高齢者に対する買物支援
- 2) 移動販売の実施と合わせた交流の場の整備



大久保順也市議  
録画配信HPのQRコード

#### 2 高齢者に対する住宅環境の整備について

- 1) 高齢者住宅の改修支援の拡充
- 2) 住宅内での事故防止と高齢者住宅の改修支援の周知

#### 3 自転車のまち宇都宮の推進について

- 1) サイクルレインの実証実験
- 2) ナショナルサイクルルート
- 3) シェアリングモビリティの安全対策

## 個人質問 40分 横須賀咲紀



### 質問項目

#### 1 ユースワーカーの養成と活用について

#### 2 幼児期における環境教育について

#### 3 ライトライン運転手の職場環境について



横須賀咲紀市議  
録画配信HPのQRコード

### 質問及び答弁(抜粋)

#### 1 ユースワーカーの養成と活用について

若者が主体性をもって自分らしく活躍できる社会を実現するためには、「ユース

### 質問及び答弁(抜粋)

#### 3 ヤングケアラーへの支援について

Q 栃木県が令和4年度に実施した「ヤングケアラー実態調査」において、「世話をしている家族がいる」と回答した子どもの割合は、国の調査結果を上回っていることから、本市においても同様の状況が推察される。そこで、より正確な状況を把握し対策を講じるため、本市独自のヤングケアラーの実態調査を実施するとともに、当事者となるこどもたちのヤングケアラーに対する認知度が低いことから、更なる周知啓発が必要と考えるが、見解を伺う。

A 【こども部長答弁】令和7年度に、学校などを通じて市内のヤングケアラーのより正確な状況を把握するための調査を予定しており、国の動向を見据えながら実施方法について検討している。

こどもへの周知啓発については、児童生徒や保護者へのチラシ配布などにより取り組んできたところであり、今後の実態調査の結果を踏まえながら、更なる周知に取り組んでいく。

#### 4 持続可能な河川敷と公園の環境整備

#### 5 投票率の向上について

- 1) 期日前投票所
- 2) 投票済証

### 質問及び答弁(抜粋)

#### 1 高齢者に対する買物支援と交流機会の整備について

##### 1) 高齢者に対する買物支援

Q 地域コミュニティセンターなどでの移動販売の実施に向けて、今後どのように取り組んでいくのか、また、実施時期はいつごろを検討しているのか伺う。

A 【市長答弁】住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう買物などの日常生活を支援する取組の充実を図ることが重要である。移動販売については、利用者から「スーパーまで遠いので助かる、自分の目で商品が選べて嬉しい」などの声をいただいております。地域の買物ニーズを補完するサービスとして、期待の高まりを感じている。今後は、地域住民のニーズを踏まえ、包括連携協定を締結した事業者を含め、移動販売事業者などに協力をいた

ワーカー」等の若者と関わる人材の育成が必要不可欠と考えるが、市の見解を伺う。

A 【市長答弁】「ユースワーカー」は、若者の居場所づくりや地域参加などの幅広い活動の後押しや、若者の悩みや困りごとの相談など、自分らしく生きる手助けをする役割を担うとされており、近年、孤独・孤立の状況にある若者や、将来への不安や悩みを持つ若者が増加する中、一人ひとりが主体性を持って自分らしく活躍する社会を実現するためには、若者と関わる人材の育成はますます重要になると認識している。

Q さらに多くの若者と関わるために、アウトリーチ等の若者がいる場所に出向いて関わりを紡ぐやり方についても検討すべきと考えるが、見解を伺う。

A 【市長答弁】悩みなどを抱える若者を支えるためには、窓口における相談に加え、アウトリーチ等によりアプローチすることが効果的であると考えることから、街なか等での青少年巡回指導員による声かけなど、様々な取組を引き続き行う。

Q 令和6年4月から開始された、支援が必要な子育て家庭や妊産婦などがある家庭を訪問支援員が訪問し、食事の準備や洗濯、掃除、買い物の代行などの「家事支援」や保育所の送迎、児童の見守りなどの「育児支援」を行う子育て世帯訪問支援事業は、ヤングケアラー世帯も対象となり、ヤングケアラーの負担軽減に有効な取り組みと考えるが、残念ながら利用は伸び悩んでいる。この事業は、市のヤングケアラーを紹介するページにも掲載されていないこともあり、認知度が低いと思われることから、周知を強化するとともに、クーポン券にし、例えば、初回利用は500円のクオカードが特典として付く等、「使わないと損」という意識をくすぐり、まず1回利用してもらうための仕掛けが必要と考えるが、見解を伺う。

A 【保健福祉部長答弁】現在、ヤングケアラー1世帯を含む5世帯が利用している。今後とも、支援を必要とする家庭が適切なサービスを受けられるよう、対象者の把握や確実な周知に努め、利用勧奨を行うとともに、対象者の声を聴きながら利用しやすい仕組みについて検討していく。

だき、移動販売の試行的な実施を通して販売場所や実施頻度の検証を行うなど、早期の事業実施に向け、検討を進める。

#### 5 投票率の向上について

##### 2) 投票済証

Q 幅広い層に選挙に関心を持ってもらうため、話題性のあるデザインの検討や学生からのデザインの募集、市独自の「親子連れ投票記念証」を作成するのはどうか伺う。

A 【選挙管理委員会委員長答弁】話題性のある投票済証は、選挙への興味・関心を高めると認識している。若年層の発想を生かしたデザイン・企画を募集するなど、幅広い年齢層に手にしていただける魅力ある投票済証の作成に取り組んでいく。また、親子連れ投票記念証については、ミヤリーなどのマスコットキャラクターをデザインした独自のステッカーを配布しているが、今後、県と調整し、親子に喜んで持ち帰っていただける魅力ある記念証の交付に努める。



#### 3 ライトライン運転手の職場環境について

Q 車両認識による自動ブレーキなど新たな運転支援システムの導入や、夏場の暑さ対策としての運転席における空調設備の改善を検討すべきと考えるがいかがか。

A 【建設部長答弁】ライトラインについては、走行安全性や運転環境に配慮した設計がされているが、「前方車両等を検知して自動的にブレーキを作動させるなどの運転支援システム」については、現在、国内の路面電車において導入事例がないことから最新の技術的な動向等を注視する。また、ライトラインの車内においては、夏場や冬場に対応した空調設備が整備されているが、運転席においては、特に夏に熱気が滞留する傾向にあり、運転士から改善を求める意見があったことから、運転席への遮熱フィルムを設置するなど、運転席の環境向上に向けて対策を講じてきた。今後も、本市、芳賀町、宇都宮ライトレール株式会社で連携を図りながら、働きやすい環境づくりに向けて、必要に応じ施設の改善に努める。

私たちは皆様の声を市政に活かします!!

次回 令和7年3月議会質問予定者  
福田智恵・郷間康久・高橋英樹